



¡Hola! desde Nicaragua

☆青年海外協力隊 ニカラグア通信 No43☆ 2012年11月5日 発行者 夏目佳代子

¡Hola! 11月4日は市長選挙、地方統一選挙で、5年に1回行なわれる大統領選挙の翌年に行なわれます。抗議デモや政党同士の対立など治安の悪化も予想されるため、私たちは当日と翌日自宅待機です。ニカラグア全土でも、投票日前後は酒類の販売が禁止されるなどの規制があります。現在の大統領、そして多くの市は「サンディニスタ」という政党、そしてヌエバギネア市は「リベラル」という政党が治めています。この選挙に向けて1ヶ月半ほど選挙運動が盛んに行なわれていました。リベラル党の最後の選挙活動は野球スタジアムで行なわれ、遠くの集落からも集まって満員だったそうです。帰って行く人たちは野球の応援をしてきたかのように見えました。びっくりするのは子どもたちも参加しているということ。大人に交じって、応援メッセージが入ったTシャツやぼうしを身につけて各政党の旗を振り広げています。ある日、小学校1年生の子に「サンディニスタ？」と聞かれ、またある日は、別の子に「リベラルに投票する？」と聞かれ、こんな小さいうちから知っているんだなあと驚きました。一方、投票では不正や票が盗まれるなど公平に行なわれていない現状もあるようで、そのようなことが治安の悪化にもつながっているのだと思います。この期間、市役所職員である青少年の家のスタッフも選挙活動で忙しく、予定していたイベントや講座ができなかったり、と残念なこともありましたが、まずは何ごともなく選挙が終わることを願っています。



☆サンディニスタの旗は黒と赤



☆リベラルの旗は赤

☆ヌエバギネアの子どもたち ～生活編～

ヌエバギネアに着任した当時、町を歩いて思ったのは「子どもや赤ちゃんが多いなあ～」ということです。子どもたちに聞くと、5人、6人兄弟もめずらしくありません。また、親戚も近所や一緒に住んでいることが多く、同じくらいの年の子どもたちに、「兄弟？」と聞くと、「いとこだよ。」そして「おじさんだよ。」という答が返ってきたりします。年上の子が年下の子の面倒をよくみていて、一緒に遊んだり、赤ちゃんを抱いて上手にあやしたりしています。ソーラン節の練習も、小さな弟や妹がくっついて来ることもありました。午前の部の授業は7時に始まるので、子どもたちは結構早起き。5時くらいに起きて水浴びをすることから1日が始まるようです。小学校で行なわれていた朝礼で、校長先生が「朝ちゃんと水浴びをしてきましたか？」と子どもたちに聞いていました。日本だと「朝、顔洗ってきましたか？」になるんでしょうね。学校から帰って来ると、遊びや宿題ももちろんですが、家のお手伝いをよくしているようです。おつかい、洗濯（手洗いです）、そうじ、食事の準備や片付けなど。町を歩いていると、おつかい途中の子どもたちによく会います。店番や、家族が作ったパンやお菓子、ゆでたとうもろこしなどをたらいに入れて売っている子も見かけます。40号で紹介したジュニエスカ、朝家の前を通るとよく家のそうじをしています。お父さんは「もう13歳だから全部やらなきゃね。」と話していました。子どもたちにとって、家のお手伝いをすることは特別なことというより、毎日することとしてごく自然に行っているように感じます。



☆妹の面倒をみたり、薪運びをしたりする子どもたち



☆そうじするジュニエスカ。いとこたちの面倒もよくみます。

☆アートマイルプロジェクト少しずつ進行中

アートマイルプロジェクト、10月は日本について学びました。1つ目はリクエストに応じて折り紙。折り紙の説明のときに、広島平和記念公園にある原爆の像のモデルになった佐々木禎子さんと千羽鶴



の話をしたら、とても興味深く聞いてくれました。その後、みんなで鶴を作りました。折り紙の本を見て、自分だけで上手に作る子もいました。別の日は、子どもたちの「知りたい!」という声が多かった「食べ物」。ニカラグアと日本のごはんを比べてみて、共通点とちがう点を考えました。子どもたちからはこんな意見が出ました。<共通点> 1日3回食事をする。/お米やパン、魚、肉、卵を食べる。

<ちがう点>ニカラグアでは昼ごはん、日本は夕食がメイン。/日本は油と塩を入れずにお米を炊く。お米はパラパラしていない。/日本にはトルティーヤやプラタノ(食用バナナ)などの付け合わせがない/箸を使って食べる。などです。その後は箸の使い方を練習しました。最初は苦戦していましたが、しばらく練習して小さな豆もつまめるようになりました。



☆2つつまめた!!。



また、岐阜の子どもたちからは、学校や生活についての質問と、学校で行なっている鼓笛隊の写真が届きました。独立記念日などに行なわれるバンドに似ているので、その写真やビデオと独立記念日のお祝いについての説明を送りました。日本とニカラグア、ちがう点はたくさんありますが、共通しているところもあります。交流を通してお互いのことをより知って、つながりが深まっていくといいなと思っています。

☆←日本からの質問に答えています。

☆第3回青少年の家フェスティバル

ニカラグアには15の県と2つの自治区があります。ヌエバギネアがあるのは南太平洋自治区。スペイン語の頭文字をとってRAAS(ラ-ス)と呼ばれています。RAASの8の市に青少年の家があるのですが、10月31日、各市から青少年たちが集まってフェスティバルが開催されました。昨年は任地に着いたその週末に行なわれ、一緒に行って見ただけでしたが、今年はヌエバギネアでの開催、前夜祭も行うということで、会場の準備などもあって大変。選挙活動でスタッフもいないことが多くてなかなか準備も進まず・・・それでも、以前手工芸教室に参加した子たちと一緒に展示販売品を作ったり、イベントの定番の垂れ幕を作ったりできるところから進めました。このフェスティバルはビデオ、ポスター、放送(45秒以内のラジオコマーシャル)、絵画、劇、歌、ダンスの7部門のコンクールです。それぞれの部門にはテーマがあり、作品にメッセージが込められています。例えば、劇のテーマは「男女平等」、ポスターは「恋人間の暴力予防」、放送は「若年妊娠予防」など、ニカラグアが抱える青少年問題への啓発がねらいでもあります。



☆リサイクル手工芸品の展示販売も

毎度のことですが、本番に発揮される彼らの力と度胸に毎回感心させられます。劇の練習は数日、さらに隣の広場で行なわれていた選挙集会の音楽でお互いの声が聞こえないくらい時もありましたが、本番は役になりきって堂々と演じました。当日募られた司会者も自分流でどんどん進めていきます。プログラム進行中、「踊ってくれる人～!!」という呼びかけに何人かステージに上がってステキなダンスを披露してくれたりと夜遅くまで盛り上がりました。審査発表の結果、ヌエバギネアはビデオとポスター、絵画部門で1位。12月に行なわれる全国大会に出場できることになりました。実はそのビデオとポスターができ上がったのは当日の朝4時。間に合うのかひやひやでしたが、うれしい結果にみんな大喜び。青少年の家ではいつも決まったメンバーが活動しているわけでないので、イベントごとに協力者を募ります。今回も彼らのおかげで会場準備や当日運営、片付けまで無事に終わることができました。

